



2009 年度上期未踏 IT 人材発掘・育成事業 採択案件評価書

1. 担当PM

筧 捷彦 PM(早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 情報理工学科 教授)

2. 採択者氏名

チーフクリエイター: 佐藤 彩夏(慶應義塾大学 環境情報学部)

コクリエイター : なし

3. プロジェクト管理組織

株式会社ゴーガ

4. 委託金支払額

3,000,000 円

5. テーマ名

姿を利用したファッションコーディネート支援システムの開発

6. 関連Webサイト

<http://sugatalog.com/>

7. テーマ概要

毎日の服装選びに悩む人に向けた、姿を利用したファッションコーディネート支援システム:suGATALOG(スガタログ)の開発を行う。

服装選びは、その日の予定、会う人、天気などを考慮しながらどのような服装がいか検討し、実際に着替えてよければ決定、そうでなければ着替えなおすという判断

力と体力を要する作業である。

suGATALOG は、全身鏡の前で服装の確認をした際に撮影を行い、撮り貯めた写真をトップスとボトムスで合成することで着替えることなく画面上でコーディネートシミュレーションが行えるアプリケーションである。既存のファッションコーディネート支援システムは、洋服だけの写真を利用しているため、実際に着用したイメージとは異なる。また、洋服の写真を撮影する手間もある。

suGATALOG は、鏡の前でついでに撮影を行い、実際にユーザが着用した写真を利用して合成を行うため、ユーザの手間を最小限に抑えて着用イメージでシミュレーションが行える。

8. 採択理由

自分の服装コーディネーションをチェックしたり、様々に組合せを変えて“仮想試着”したりするシステム。毎日向かう姿見鏡の上にビデオカメラをつけて、鏡に映した姿を PC に取り込んで使う。

すでに2年近くにわたって一人でコツコツと作りあげてきたシステムを基に、未踏ユース期間中に Web サービスとして整備したいという。Web サービスについてはこれから勉強するというのだが、何しろ自分で使うのによりよくなりたい、他の人にも使ってもらいたいと、動機が明確であるので、ぐっと実力を伸ばしてくれるに違いない。

9. 開発目標

「姿を利用したファッションコーディネート支援システム」suGATALOG(スガタログ)を開発し、毎日の服装選びを支援するシステムとして、多くのユーザが使える形にすることを目指した。そのために、システムをウェブアプリケーション化することで、インストールの手間を省き、また、機能拡張の際もユーザが再インストールする手間を軽減させる設計とした。アプリケーションは、撮影システム、カレンダー機能、試着室機能、お気に入り機能、クローゼット機能の大きく分けて5つの機能から成る設計にした。

まず、撮影システムでは鏡に取り付けたウェブカメラで毎朝撮影を行う。撮影した写真はカレンダー状に並ぶ(カレンダー機能)。カレンダー上の写真はトップスとボトムスとの2枚に切り分けられ、写真の上半分、下半分をクリックすると、「試着室」のトップス、ボトムスがそれぞれ切り替わる(試着室機能)。試着室上で組み合わせた写真はお気に入り登録することで、複数のコーディネートと並べて比較ができる(お気に入り機能)。クローゼット機能は、今まで撮影した写真をトップスとボトムスに分けて管理することができる機能である。

10. 進捗概要

アプリケーションを多くの人に使ってもらうことを目指した。そのために、プロジェクト期間中にクリエイター自身が1月の頭から試用を始め、その2週間ほど後から男女2名ずつの合計4人に試用してもらっている。

試用の中でつぎの問題点を指摘されたことから、システムの改善を行った。

- ・トップスとボトムスが二枚に分かれていることがわかりにくい
 - マウスオーバーでカレンダー上の写真の上に色がつき、同時に試着室上にも、どこがコーディネートされるか枠を出すようにした
- ・カレンダーだけだと何をしたか分からない
 - twitter と連携させることでユーザの手間なく予定を想起できる可能性を作った

11. 成果

開発結果として実現できたのは撮影システム(図 2.6.4.1)、試着室機能(図 2.6.4.2)、カレンダー機能、お気に入り機能である。それに加えて、オートコーディネート機能、コーディネートプラン機能、ファッションショー機能、suGATTER 機能(図 2.6.4.3)の実装を行った。試着室機能の一部と、クローゼット機能が実現できなかった。



図 2.6.4.1 撮影システム



図 2.6.4.2 試着室機能画面



図 2.6.4.3 suGATTER 機能画面

本システムは、手法がシンプルでありながらも、実際に着たかのようなイメージで手軽にコーディネートが行えるということが最大の特徴であり、Sony 社の PSP のソフト「MyStylist」(<http://www.jp.playstation.com/scej/title/mystylist/>)と株式会社プーペガールの「プーペガール」(<http://pupe.ameba.jp/>)との比較を行なったところ、実際に着られるかどうかの判断ができる順位について、suGATALOG の手法が 15 人中 13 人、最もコーディネートをしやすかったという結果となった。

12. プロジェクト評価

このプロジェクトは、クリエイターが2年ほどかけて育て上げてきた、トップスとボトムスの組合せを記録し、その日のコーディネートを考える時の補助に使うシステムを出発点にして、多くの人に使ってもらえるようにウェブサービス化する、というものである。そのシステムの特徴は、ありものをうまく使って自分の欲しい機能を得る、という発想で徹底している点にある。毎日のコーディネートで姿見の前に立つ。その時いつも同じ位置に立って撮影すればトップスとボトムスの組合せは単に上半分と下半分の像を張り合わせるだけで得られる。高度な画像処理など必要としない。こんな単純な仕掛けで十分に役に立つ。そう割り切ってみせたプロジェクトである。

多くの人に使ってもらうには、簡単に使えることが一番である。それにはソフトウェアをダウンロードするとか、インストールするとかといった作業も必要としない形にしたい。それがウェブサービス化を行う目的であった。もう1点、定点で撮影を行うにも、そのカメラが簡単に設置できないと、やはり多くの人には使ってもらえないに違いない。この問題に対する解決策を探る、というのもこのプロジェクトの裏にクリエイターが意図していたことであった。

ウェブサービス化は、比較的早くに実現できた。実際にそのシステムを使用してもらうのが1月以降になったのは、裏の意図であるカメラをどうするか、に対してあれこれ実験をしていたからである。別建てのカメラを用意すると、そのカメラの電源やそのカメラとウェブアクセスしている PC との間の通信をどのようにするかという問題が生じる。クリエイター自身はケーブルを伸ばして PC につないで使うことにした。しかし、ケーブルを張るなんてことではいやがる人も多い。それなら、(ノート)PC 組み込みのカメラを利用するのはどうか。それならこうした問題は生じないものの、今度は姿見の所に PC を持って行って撮影するのにあたってシャッターをどうやって押すか、という問題が生じる。この問題に対しても、最終的には割り切った。セルフタイマーをまねたのである。カメラである PC の置き場も、撮影されるのに立つ位置も、あらかじめ手間をかけて決めておき、テープを貼るなりして目印を付けておく。その位置に PC を置き、キーを押して立ち位置に移動すると「チッチッ…」と音がして「カシャッ」と撮影ができる仕組みを用意するにとどめたのである。

こうして複数の協力者を得て、使ってもらいながらあれこれ意見をもらってはソフトウェアを育てることに注力したのである。できたものは、なかなかの仕上がりである。何が欲しいのか、使う人が簡単にできることは使う人に協力してもらい、ありものの技術を使ってできることをうまく使って実現する、というクリエイターの割り切りのセンスは高く評価できるものである。ただ、ここまでに作り上げたものを本格的なウェブサービスとして一般の人に広く使ってもらうには、画像データの安全・安心をどう確保するか、という大きな問題が残っている。この問題を含めて、本格的に多くのユーザに使ってもらえる仕組みにしていくのは、しかるべき技術的・ビジネス的な面でのパートナーを得て進めていくのがいいのかもしれない。

13. 今後の課題

なんといっても、利用者の画像データに対する安全・安心をどう確保するかが大きな課題である。また、カメラの問題もさらに一工夫を必要とする。クリエイターは、そのセンスを活かして割り切ったサービス内容を考えていくことに集中して、技術的・ビジネス的な面についてはしかるべきパートナーを得て suGATALOG を世に出していくことを考えてみるのがよい。